高齢期呼吸器疾患患者のせん妄発症に関連した要因と発症パターンの特徴

福田　和美

福岡大学医学部看護学科老年看護学

要旨：目的：本研究の目的は，高齢期の呼吸器疾患患者のせん妄発症についての関連要因とせん妄患者間のせん妄発症時期と持続日数の分析を行い，せん妄発症パターンの特徴を明らかにすることである．
方法：対象は，65 歳以上の呼吸器疾患患者で，せん妄評価尺度（ナース版）を用いて 12 点以上をせん妄群とした．発症要因に関しては，せん妄群と非せん妄群に分類し，２群間の属性や入院時の状態の比較を行った．せん妄発症に関連する要因については，ロジスティック回帰分析を行った．また，せん妄発症日とせん妄発症継続日数を２群に分け，属性や入院時の状態の比較を行った．
結果:せん妄発症率は30.2%であった. せん妄発症要因として, 年齢, 認知症, 視聴覚障害に有意差がみられた. せん妄発生に関連する要因は,「呼吸器症状があること」,「認知症であること」であった．せん妄発症パターンの特徴として，入院からせん妄発症までの日数間では有意差は見られなかったが，せん妄発症継続日数では，せん妄最高得点と入院時の体温に有意差がみられた．
結論： せん妄は様々な要因が重なり発症する多因性である．高齢期呼吸器疾患患者においても，呼吸器症状とともに年齢や認知症など高齢者の特性をふまえ，多角的な視点からせん妄アセスメントを行う必要がある．また，入院時の発熱やせん妄状態の重症化は，せん妄遷延化の予測につながる．

キーワード：高齢患者，呼吸器疾患，せん妄発症，リスク要因